

☆作業日あれこれ

2月の定例作業日は三連休の真ん中、この日だけが晴れて作業日和となりました。午後に雨喜びや雪見酒の可能性が全くない天候です。



春を告げるフキノトウ

観察会はキッシーの担当、最初は旬のフキノトウからです。毎年森で一番早くフキノトウが目覚めるので、今年はまだなのかと思いながらも調べるというもより下の水辺に芽を出していました。まだ堅い蕾で、キッシーはフキノトウは地下茎から茎に先立って花だけが出る物で、雄花と雌花があると説明したいのですが、開いていない蕾では確かめようもありません。「食べられるのはどっちや!？」とまことに遊林会らしい質問には、どちらも食べられますと答えておりました。次は草原広場へ移動してクヌギの樹皮を観察、キッシーがおかしなところはないかと尋ねます。みんなで調べると一カ所樹皮が直径1センチぐらい黒っぽく見えるところが見つかりました。これはヨヅナシガメ(横綱刺亀)という幼虫の集まりです。横綱の名は平べったい腹と赤い点が横綱の化粧回しのようなことから、刺亀は尖った口吻で毛虫などの体液を吸うカマシの仲間から名付けられているとのこと。集団で越冬する幼虫は春の終わり頃に羽化しますが、もとはインドから中国にかけて生息する帰化昆虫で徐々に東に生息域を広げているようです。虫がいた場所は樹皮の南側で、寒さを避けているなど一同納得です。最後は場所を草庫側の木道の入口に移して、クヌギとヒキの花の観察です。キッシーはクヌギの枝を手にとり、先に付いた雄花を見せていましたが、シエ組は「知ってるがなー。これを杉玉鉄砲の弾にして遊んだんや。撃つと煙が出るんや」と得意満面です。これからの時期、軽トラ野郎殿は重度の花粉症のために自宅引き籠もり状態ですが、花粉症などと縁のない面々は、梢にたわわに付いているクヌギの花を見上げて「ニュースで言うところけど、ほんまにようけ咲いとるな。こりゃ花粉症のもんはえらいこっちゃ」と人ごとでありましたが、後日とんでもないことになるうとはクヌギは夢想だにしておりませんでした。脱線しますが、職場でインフルエンザが蔓延、クヌギも喉の痛みや鼻水が止ま

らず、感染したと思い療養に努めていました。発症して五日目、目に影響が出始めてようやく花粉症を疑うこととなり、それ用の薬を服用すると症状が軽くなり、病院でも血液検査するまでもなく立派な花粉症だと診断されてしまいました。軽トラ野郎殿の苦痛が我がこととなり、森との関わりについて悩むことに…。



萌芽更新の様子

この日の作業は萌芽更新のために伐ったクヌギなどの枝のチップ処理とチップの観察路へ散布、毎度お馴染み青年部長の竹林整備、そしてサの機械刈りです。いつもですと、各作業を見て回るのですが、今月は前月の作業の続き、細々退治に4人で出動です。クヌギの林を中心にしぶとく残る細々は、放置すれば地下茎に養分を貯め、毎春、発生する筈が太くなり、いずれは元の竹藪に戻ります。このエリアの竹林を皆伐して10年以上になりますが、手の抜けない生態系の敵です。3月もやります！

お昼はおでんがメイン、切り干し大根にイシの肉、そしてフキノトウ味噌などです。この味噌のフキノトウは大先生が心当たりを探しても観察会の場所にしか見つからなかった品です。適度の苦さと味噌に加えられた胡麻や味噌などで味を調えられたそれは、春を味わう酒の肴として絶品でしたが、午後の作業のため、ひたすら節度を保って味わいました。午後からの作業は、一度みんなにクヌギの大木を伐採する現場を見てもらおうと、昼食後も後片づけを後回しにして全員で萌芽更新作業の現場に行きました。そして1本のクヌギを伐採し、全員でチェーンソーや鋸で捌いて、ほだ木や薪の長さに切り刻みました。萌芽更新作業は最も遊林会らしい作業のひとつです。今回はこの森をお借りしている地元の建部北町からシタケ用のほだ木のご希望がありましたので、今シーズン萌芽更新で伐採しているナラ類からほだ木用として90cmの長さに切り出しました。日頃お世話になっている地元の方々のためにも、何とか90本ほだ木に適した材を用意できました。ぜひ、良いシタケを育ててください。ただ、高木を伐採する萌芽更新作業は数年に一度しかできない作業ですので、毎年ほだ木をお渡しできないことは悪しからず御了承を…

3月23日(水曜日) 週日活動 森の居酒屋は3月9日 午後7時頃～

3月12日(第2土曜日) 9時～(遅刻可)

主 催 者 : 遊 林 会

連絡先(遊林会事務局): 滋賀県 東近江市 河辺いきものの森 Tel 0748-20-5211 Fax 0748-20-5210

URL: <http://www.yurinkai.org/>

E-mail: ikimono@e-omi.ne.jp

森のブログは「かわべえフトログ」で検索!

4月の陽気といわれた第4水曜日は、本当に汗ばむほどでした。この日もトングリ広場での萌芽更新作業、つまり高木の伐採です。この日は若手の新人1名を含む18名が参加、チェーンソーを駆使しての伐採・玉切り・枝払いの一連の作業です。今回も高さ15mほどの大きなクヌギやコナラの伐採ですが、これまでの作業で既に伐採したところに大きな空間が出来ているので、その空間に向けて伐倒します。とはいえ、何回やっても伐採作業に油断は禁物、勢いにまかせてはいけません。きっちりと方向を定め、チェーンソーの刃を入れてからも微調整をして、定めた方向に倒すようにします。大きな木が倒れる時の音は本当に「ズシーン！」という感じで迫力があります。あまりの陽気に全員上着を脱ぎつつ、午前中に2本伐採しお昼を迎えました。昼食は久しぶりに名人がそろい、炊き込みご飯、粕汁、おから、味噌大根、酢豚ならぬ酢“鳥”、そして水菜のカシ和えと豪華。おいしいご飯を前にみんな「ああ、食いだめが出来たらいいのに～」と言いながら戴きました。新人さんは「いつもこんなご飯が出るんですか!」とビックリしていました。作業は午後からも継続、さらに2本を伐採し、この日は計4本処理できました。

☆3月の木ままクラブ

気軽に気ままに木曜日に活動する木ままクラブ。2月は2回の活動を行いました。
2/3 11人 トングリ広場にて萌芽更新作業です。枝張りの多い大木相手に苦戦しましたが、この日は4本伐採しました。
2/17 11人 この日も萌芽更新作業です。伐採中にチェーンソーが挟まるトラブルがありましたが、何とか3本伐採できました。
3月は3日、17日、31日が活動日です。

☆河辺いきものの森スタッフルーム情報

昨年4月に遊林会スタッフとしてこの森にやってきたキッシーです。新年度からは大学院に戻るので、散らかしている事務所の机の上をそろそろ片付け始めないといけません。短い間でしたが、いろんな事を経験することが出来たし、たくさんのお話を聞くことが出来ました。季節が進むにつれて、日毎に姿を変えていく森の姿に何度も驚かされ、その驚きを共有することが出来るスタッフや遊林会のみなさんと共に、本当に充実した時間を過ごせたなと感じています。センターに勤務することはなくなっても、活動には参加していきたいと思っていますので、今後もよろしくお願いします。

☆春休みイベント情報

3月後半には春休みがやってきます！河辺い

きものの森では、生命力あふれる春の森を使った様々なイベントを開催します。

*どなたでも参加できるイベント

・春休みスペシャルイベント 春休み期間中、毎日開催（但し、3月28日、4月4日の月曜日は除く）

*小学生対象のイベント

- ・大きな木と遊ぼう 3月25日
- ・森のげいじゅつか 3月30日
- ・たき火にちょうせん 4月6日

*4才～6才児の親子対象のイベント

- ・春の森で み～つけた！ 3月27日、4月2日

詳しいイベント情報は、遊林会HPもしくは、スタッフブログ「かわべえフォトログ」をご覧ください。

☆こんな情報発信しています!!

今は情報化社会。この森の情報発信としては、通信、HP、スタッフによるブログがメインです。最近では情報のデータ化が進み、本や新聞までもがデジタル化されていますが、やはり手に取り読むというのも良いものです。通信は来月の156号でなんと13年この通信を作ってきたこととなります。全部の通信を積み上げると、様々な思いがこみ上げてきます。でも、やはり最近の流れはインターネット。本当にいつでもどこでも様々な情報を得られるようになりました。ネットでの情報発信も遊林会では力を入れています。HPでは写真付きで遊林会作業日の活動の様子や、イベントの様子をお伝えする「森の歳時記」や、クサさんの日々のつぶやきが聞けるツイッターではなく「森の掲示板」、他にもイベント情報や活動に関する内容など様々なことが見られます。HPも今年の10月で10周年になります。そして最後にスタッフによるブログ「かわべえフォトログ」。日々の移り変わりや、その時に見頃の植物、出会った生き物、スタッフのビックリした情報など、写真をメインにしたブログになっています。上記の二つに比べるとまだ日は浅いのですが、ブログも3月で3周年を迎えます。“里山保全”で検索するとHPが出てきます。そこからブログへも飛べますので、ぜひご覧になってみて下さいね。「続けることが大切」なので、これからも様々な方法で、森の情報を発信し続けていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

☆3月の作業は…

竹林整備、細竹の刈り取り、薪割り、チップ、伐採作業で生じた端材にシタケの菌打ち…など盛りだくさんの予定です。作業には気持ちの良い気候ですからぜひ一汗かきにおこしてください。

容器やコップは数に限りがあります。食器の持参をお願いします！